



平成24年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年8月14日

上場会社名 株式会社SmartEbook.com 上場取引所 大
コード番号 2330 URL http://www.smartebook.com/
代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 安嶋 幸直
問合せ責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 飯田 潔 TEL (092)263-5911
四半期報告書提出予定日 平成24年8月14日
配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第2四半期の連結業績（平成24年1月1日～平成24年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第2四半期	258	△ 62.2	△ 415	—	△ 368	—	△ 375	—
23年12月期第2四半期	684	△ 70.8	△ 578	—	△ 550	—	△ 845	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年12月期第2四半期	△ 170	92	—	—
23年12月期第2四半期	△ 434	77	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円	百万円	円	%	円	銭	
24年12月期第2四半期	4,345	—	4,047	—	93.2	1,844	72	
23年12月期	4,949	—	4,423	—	89.4	2,015	79	

(参考) 自己資本 24年12月期第2四半期 4,047百万円 23年12月期 4,423百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
23年12月期	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 0 00
24年12月期	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —
24年12月期 (予想)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想（平成24年1月1日～平成24年12月31日）

当社グループが展開しているコンテンツ事業及びファンディング事業は、市場環境の変化が激しく、不確定要素が大きいため合理的な予想値の算定を行うことは困難であり、現段階では適切な予想の開示ができないと判断したため、記載しておりません。

4. その他

(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結の範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有

新規 2社 (社名) 株式会社SEF、丝玛伊布克信息科技（上海）有限公司
除外 1社 (社名)

(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ②①以外の会計方針の変更：無
- ③会計上の見積りの変更：無
- ③修正再表示：無

(4)発行済株式数（普通株式）

	株		株	
①期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年12月期2Q	2,194,270	23年12月期	2,222,074
②期末自己株式数	24年12月期2Q	-	23年12月期	27,804
③期中平均株式数(四半期累計)	24年12月期2Q	2,194,270	23年12月期1Q	2,214,237

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他の特記事項

本資料に記載されている連結業績予想は発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。平成24年12月期の配当予想額につきましては、現時点で業績予想について適切な開示が困難であると判断し記載していないことから、配当につきましても未定とさせていただきます。予想額の開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(7) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成24年1月1日～平成24年6月30日）におけるわが国経済は、国内においては緩やかな景気回復が見られたものの、欧州での緊縮財政等に伴った世界経済の減速や円高の影響などにより、企業を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境といたしましては、2011年の携帯電話端末の日本国内市場のスマートフォンの出荷台数は、前年比約2.2倍の1,880万台で、携帯電話の国内出荷台数（3,620万台）に占める割合は約52%とはじめて、50%をこえました。（『2012 次世代携帯電話とキーデバイス市場の将来展望』出所／富士キメラ総研）

また、日本の電子書籍市場は、新たなプラットフォーム向け電子書籍市場の急速な立ち上がりにより、2016年度には2011年度の約3.1倍の2,000億円程度になると予測され、2012年度中には米Amazonなど海外事業者の参入が見込まれることや、楽天Kobo等の国内展開をきっかけとして、今後2～3年の間にコンテンツや環境が整い、2013年度以降に本格的な拡大期に入ることが予想されています。（『電子書籍ビジネス調査報告書2012』出所／インターネットメディア総合研究所）

このような経済環境のもと、当第2四半期連結累計期間におきましては、ebooksのプラットフォーム提供会社として再成長戦略プランを実現するため、流通チャネルの拡大に加え、B2Bプラットフォームの提供、グローバルコンテンツカタログの確保、利便性の高いe-booksビューワーの開発を中心に進めてまいりました。スマートフォン専用マーケットである、China mobileの閲覧基地（注1）、動画基地（注2）、China telecomの閲覧基地との契約締結、中国の大手SNS「開心網」「人人網」での配信開始、無料メッセージングアプリ「カカオトーク」との協業等、主に通信キャリアとのリレーションを強化することはできたものの、商品パッケージやビューワー提供の遅れにより、当第2四半期連結累計期間における売上貢献には至りませんでした。また、売上原価及び販売管理費及び一般管理費につきましては、フィーチャーフォンサイトの統合によるランニングコストの圧縮に努めたものの、売上高の減少により、営業損失の改善には至りませんでした。

この結果、当社グループの連結業績につきましては、売上高258,481千円（前年同期比62.2%減）、営業損失415,870千円（前年同期は営業損失578,832千円）、経常損失368,085千円（前年同期は経常損失550,558千円）、四半期純損失375,055千円（前年同期は四半期純損失845,675千円）となりました。

注1：閲覧基地とは、スマートフォン向け、電子書籍（活字）マーケットです。

注2：動画基地とは、スマートフォン向け、電子書籍（コミック、動画）マーケットです。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、前第2四半期連結累計期間まで、「ファンディング事業」を報告セグメントとしておりましたが、量的重要性が縮小したことに伴い、報告セグメントから「その他」に区分変更しております。そのため、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

①コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、流通チャネルの拡大に加え、B2Bプラットフォームの提供、グローバルコンテンツカタログの確保、利便性の高いe-booksビューワーの開発を中心に進めてまいりました。

この結果、当該事業の売上高は238,628千円（前年同四半期比59.1%減）、営業損失246,716千円（前年同四半期は335,081千円の営業損失）となりました。

②その他の事業

その他の事業では、請求収納代行業務の取次、金融商品の売買を中心に事業展開いたしました。

この結果、当該事業の売上高は19,852千円（前年同四半期比80.4%減）、営業損失は6,390千円（前年同四半期は19,710千円の営業損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて603,870千円減少し4,345,357千円となりました。主な要因と致しましては、損失計上となったことや買掛金、未払金の支払等により、現金及び預金が463,405千円減少したこと、売上の減少に伴い売掛金が152,110千円減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて228,485千円減少し297,552千円となりました。主な要因と致しましては、売上原価の減少や販売費及び一般管理費の抑制に伴って買掛金、未払金が減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて375,385千円減少し4,047,805千円となりました。要因と致しましては、四半期純損失の計上によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて463,405千円減少し、3,449,225千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況及びこれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、△299,550千円（前年同期は△502,140千円）となりました。主な減少要因としましては、税金等調整前四半期純損失△372,559千円、仕入債務の減少額△49,656千円、及び未払金の減少額△99,322千円等を計上したことによりますが、増加要因として売上債権の減少額152,110千円等があったことにより減殺されました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、△160,297千円（前年同期は△42,260千円）となりました。これは主に、ソフトウェア等の無形固定資産の取得による支出△154,400千円、及び貸付けによる支出△8,430千円があった一方で、貸付金の回収による収入が3,485千円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計会計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、△3,396千円（前年同期は△265,781千円）となりました。これは配当金の支払額△1,254千円、リース債務の返済による支出△2,142千円によるものであります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結累計期間における、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、各セグメントに係る主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

<コンテンツ事業>

平成24年5月に、中国での当社グループの事業拡大につなげるため、現地に丝玛伊布克信息科技（上海）有限公司を設立しました。

<その他の事業>

平成24年4月に、金融商品の売買を行う、株式会社SEFを設立しました。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（4）追加情報

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,912,631	3,449,225
売掛金	494,800	342,690
コンテンツ資産	122,004	116,238
その他	280,129	218,826
貸倒引当金	△218,891	△215,876
流動資産合計	4,590,674	3,911,104
固定資産		
有形固定資産	20,844	17,863
無形固定資産	141,362	243,511
投資その他の資産		
投資有価証券	24,134	24,140
その他	172,212	148,737
投資その他の資産合計	196,346	172,878
固定資産合計	358,553	434,253
資産合計	4,949,228	4,345,357
負債の部		
流動負債		
買掛金	95,567	45,910
未払金	223,842	95,197
未払法人税等	9,860	10,381
契約解除損失引当金	117,690	104,613
リース債務	4,284	4,284
その他	38,495	14,065
流動負債合計	489,740	274,453
固定負債		
リース債務	9,883	7,741
その他	26,413	15,357
固定負債合計	36,297	23,098
負債合計	526,037	297,552
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,141,876	4,141,876
資本剰余金	3,198,051	3,104,327
利益剰余金	△2,754,578	△3,129,634
自己株式	△93,723	—
株主資本合計	4,491,625	4,116,570
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△68,434	△68,764
その他の包括利益累計額合計	△68,434	△68,764
純資産合計	4,423,191	4,047,805
負債純資産合計	4,949,228	4,345,357

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	684,189	258,481
売上原価	365,090	164,514
売上総利益	319,098	93,966
販売費及び一般管理費	897,931	509,836
営業損失(△)	△578,832	△415,870
営業外収益		
地金売却益	—	51,709
受取利息	4,020	3,705
為替差益	18,382	—
債務勘定整理益	—	17,695
その他	9,701	7,420
営業外収益合計	32,104	80,531
営業外費用		
地金評価損	—	32,155
金融派生商品費用	3,029	—
その他	801	590
営業外費用合計	3,830	32,746
経常損失(△)	△550,558	△368,085
特別利益		
貸倒引当金戻入額	8,597	—
特別利益合計	8,597	—
特別損失		
固定資産除却損	2,146	4,473
本社移転費用	127,334	—
投資有価証券評価損	3,099	—
契約解除損	134,577	—
減損損失	34,543	—
特別損失合計	301,701	4,473
税金等調整前四半期純損失(△)	△843,662	△372,559
法人税、住民税及び事業税	2,012	2,495
法人税等合計	2,012	2,495
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△845,675	△375,055
四半期純損失(△)	△845,675	△375,055

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△845,675	△375,055
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	△330
その他の包括利益合計	—	△330
四半期包括利益	△845,675	△375,385
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△845,675	△375,385

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△843,662	△372,559
減価償却費	38,248	23,734
減損損失	34,543	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△23,170	△3,014
本社移転費用引当金の増減額(△は減少)	22,412	—
契約解除損失引当金の増減額(△は減少)	98,277	△13,076
固定資産除却損	2,146	4,473
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	3,099	—
受取利息及び受取配当金	△4,020	△3,705
売上債権の増減額(△は増加)	395,153	152,110
たな卸資産の増減額(△は増加)	△62,727	5,765
保証金の増減額(△は増加)	12,455	35,859
長期前払費用の増減額(△は増加)	19,424	22,998
仕入債務の増減額(△は減少)	△14,130	△49,656
未払金の増減額(△は減少)	△166,055	△99,322
預り金の増減額(△は減少)	△11,170	△16,445
その他	△4,503	14,959
小計	△503,681	△297,878
利息及び配当金の受取額	5,897	2,646
法人税等の支払額	△4,356	△4,317
営業活動によるキャッシュ・フロー	△502,140	△299,550
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,667	△538
無形固定資産の取得による支出	△103,416	△154,400
敷金の差入による支出	△16,108	△632
敷金の回収による収入	180	278
差入保証金の差入による支出	△247	△294
差入保証金の回収による収入	—	235
貸付けによる支出	△3,463	△8,430
貸付金の回収による収入	85,463	3,485
投資活動によるキャッシュ・フロー	△42,260	△160,297
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△93,723	—
配当金の支払額	△169,916	△1,254
リース債務の返済による支出	△2,142	△2,142
財務活動によるキャッシュ・フロー	△265,781	△3,396
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,179	△161
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△811,362	△463,405
現金及び現金同等物の期首残高	5,200,083	3,912,631
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,388,721	3,449,225

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自平成23年1月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ	ファンディング				
売上高						
外部顧客への売上高	582,883	60,077	41,228	684,189	—	684,189
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	582,883	60,077	41,228	684,189	—	684,189
セグメント利益または 損失 (△)	△335,081	14,848	△34,558	△354,791	△224,041	△578,832

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、DVD、配信許諾、物販事業、広告事業、請求収納代行業務、その他を含んでおります。

2. セグメント損失の調整額△224,041千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益または損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「コンテンツ事業」セグメントにおいて、モバイルコンテンツサイトの譲受けによりのれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては79,000千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成24年1月1日 至平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ				
売上高					
外部顧客への売上高	238,628	19,852	258,481	—	258,481
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	238,628	19,852	258,481	—	258,481
セグメント損失 (△)	△246,716	△6,390	△253,106	△162,763	△415,870

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、DVD、配信許諾、物販事業、金融商品の売買、請求収納代行業務、その他を含んでおります。

2. セグメント損失の調整額△162,763千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結累計期間まで、「ファンディング事業」を報告セグメントとしておりましたが、量的重要性が縮小したことに伴い、報告セグメントから「その他」に区分変更しておりますが、これに伴う売上高及びセグメント利益に与える影響はありません。

変更後の事業区分による前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ				
売上高					
外部顧客への売上高	582,883	101,306	684,189	—	684,189
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	582,883	101,306	684,189	—	684,189
セグメント損失 (△)	△335,081	△19,710	△354,791	△224,041	△578,832

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、DVD、配信許諾、物販事業、広告事業、金融商品の売買、請求収納代行業務、その他を含んでおります。

2. セグメント損失の調整額△224,041千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。